

「技術で勝って、事業でも勝つ」日本企業となるための： ステージゲート法を活用した R&D テーマ創出・評価・選定のマネジメント

■ 日 時 ■ 2017年 3月31日 金曜日 13:00 ~ 17:00

■ 会 場 ■ 東京・麹町：一般社団法人 企業研究会 セミナールーム

■ 講 師 ■ ベクター・コンサルティング株式会社 代表取締役社長 浪江 一公 氏

《プロフィール》

大手電機メーカー、アーサー・D・リトル(ジャパン)㈱、㈱フュージョンアンドイノベーション等を経て、現在ベクター・コンサルティング(株) 代表取締役社長 経営及び技術マネジメントに関するコンサルティングにおいて20年以上の経験を有す。日本工業大学大学院 技術経営研究科教授を兼任。北海道大学工学部、米国コーネル大学経営学大学院(MBA)卒 著書・訳書に「プロフィット・ピラミッド 超高収益を実現する14のシンプルな法則」(著書)ダイヤモンド社(韓国語及び中国語でも出版)、「エマソン 妥協なき経営」(訳書)ダイヤモンド社、その他共著・共訳、雑誌への寄稿多数近著(翻訳)：「ステージゲート法 製造業のイノベーションマネジメント」(原著「Winning at New Products」ロバート・クーパー著) 英治出版 2013年

■ 本セミナーの特徴 ～以下の方針・目的で本セミナーを進めます～ ■

既に日本企業の多くが、研究開発マネジメントの手法としてステージゲート法や類似手法を採用しています。しかし、そこにはステージゲート法についての誤解が存在し、また本来のステージゲート法の本来的な意味や価値を押さえたマネジメントをしておらず、本手法を最大限に活用している企業は少ないのが現状です。

ステージゲート法は、本来は研究開発テーママネジメント、イノベーションマネジメント、技術戦略、マーケティングそして事業戦略を統合した戦略的なマネジメント手法で、まさに日本企業が「技術で勝って、事業でも勝つ」企業となるための有力な処方箋となりえるものです。

本セミナーでは、ステージゲート法の本来的な意味、価値を他社成功事例も参考にしながら再考し、その後、それを踏まえた実際の運用活動・体制についての議論を行います。

本セミナーは、ステージゲート法について初めて学ぶ方から、既にステージゲート法を利用されている方まで、広い層の方々を対象とします。

■ ご参加いただきたい皆様 ■

経営企画・研究開発企画・技術戦略・事業企画・商品開発部門などにご所属され：

- ・ 経営戦略と連動した技術戦略推進に向けてステージゲート法を活用したい
- ・ 継続的な革新的製品・事業創出に向けてステージゲート法を活用したテーマ探索から事業化までの体系を学びたい
- ・ 研究テーマの「選択」と「集中」を推進し、事業化に向けて経営資源を効率的に投入したい
- ・ ステージゲート法の更なる活用に向けて、知識を再確認したい 皆さま など

● 参加要領 ●

● 受講料 ● 1名 (消費税8%込み、資料代含む)

正会員	32,400円	本体価格 30,000円
一般	35,640円	本体価格 33,000円

● 申込書に所定事項ご記入の上、下記担当者あてにFAXいただくか、当会ホームページからお申し込みください。後日(開催日1週間～10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。

● 申込書をFAXにてご送信いただく際は、FAX番号をお間違えないようご注意ください。

● 会員企業のご確認、その他セミナーに関するご不明な点につきましては、当会ホームページより〔TOP〕→〔公開セミナー〕→〔よくあるご質問〕をご参照下さい。http://www.bri.or.jp

● 最少催行人数に満たない場合は、中止とさせていただきます。ご了承ください。

一般社団法人 企業研究会

担当：早瀬 E-mail: hayakan@bri.or.jp

〒102-0083 千代田区麹町 5-7-2

麹町 M-SQUARE 2F

TEL 03-5215-3513 FAX: 03-5215-0951

161837-1001※		17・3・31 ステージゲート法を活用した R&D テーママネジメント	
会社名			
住所	〒 -		
TEL	FAX		
部課 役職		フリガナ お名前	
e-mail			

※お客様の個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

1. ステージゲート法とは

- (1) ステージゲート法とは
- (2) ステージゲート法の背景と歴史

2. なぜ今ステージゲート法なのか？

- (1) 21世紀の日本の産業界の現実と日本企業が行く道
- (2) 革新的な製品・事業・技術創出には
- (3) ステージゲート法の本質的価値
「不確実性をマネジメントし革新的製品を継続的に出す」

休憩

3. ステージゲート法の誤解

- (1) 機械的な承認・中止の判断システムではない
- (2) テーマの「進捗」管理システムではない
- (3) デザインレビューではない
- (4) 不確実性の高い初期段階では役に立たない
- (5) 長期的な魅力のあるテーマを殺す

4. 不確実性対処法としてのステージゲート法の11の工夫

- (1) 不確実性を低減する（市場との継続的対話、フロントローディング等）
- (2) 不確実性を所与とする
（多産多死、中止の意思決定をする方法、多段階プロセス、段階的評価等）
- (3) 不確実性に起因する判断の誤りを所与とする（継続の自由を与える等）
- (4) 中止にしても成果を活用（中止になっても金庫に保存、成果を外部に提供）

5. ステージゲート法の全体像

- (1) ステージとゲートの関係
- (2) ステージゲート法の種類（プロセスは複数用意するもの）

休憩

6. ゲートの運営

- (1) ゲートの役割
- (2) ゲートにおける評価項目の全体像
プロジェクトの進捗度、プロジェクトの魅力度、今後の施策と計画
- (3) プロジェクトの魅力度の評価の具体的説明（本項目は詳細に議論します）
事業/製品の定義、市場魅力度、自社適合度、財務目標達成度、リスクと対応策
- (4) ゲート別評価項目設定の考え方
- (5) 誰が評価するか
- (6) 誰が成果物を作るか
- (7) 効果的なゲートミーティングの進め方
 - ・議論の仕方のステップ
 - ・事前の成果物のゲートキーパーへの提出
 - ・検討会でのプレゼンテーションと質疑応答
 - ・検討会でのゲートキーパーの間での議論と意思決定
- (8) プロセスマネジャー（ステージゲート法運用管理者）

7. ステージゲート法の成功企業事例

【質疑応答・ディスカッション】